

WEEKLY SIGNAL

平成27年2月27日(金) 1264号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	3/2(月)	3/3(火)	3/4(水)	3/5(木)	3/6(金)
無担保O/N	0.030% ~ 0.125%				
銀行券	+ 800	+ 1,000	+ 1,000	トシ	トシ
財政他	△ 23,900	△ 12,000	△ 39,000	+ 5,000	+ 7,000
資金需給	不 23,100	不 11,000	不 38,000	余 5,000	余 7,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M)		法人税・保険揚げ 交付税特会借入・償還		
オペ期日	共通担保(全店) △ 2,100 CP買入 △ 700 社債買入 △ 200				成長基盤支援 △ 6,200
オペスタート	共通担保(全店) + 2,200 ETF買入 + 200	国債買入 + 12,000 短国買入 + 15,000			
(日本)		マネジャーベース(2月) 営業毎旬報告(2月28日現在) 毎月勤労統計(1月)		木内日銀審議委員講演 (前橋市) 対外対内証券売買(前週分)	日本銀行の対政府取引(2月) マネジャーベースと日本銀行の 取引(2月) 景気動向指数(1月) コール市場残高(2月)
(海外)	米 個人支出・所得(1月) 米 建設支出(1月) 米 ISM製造業景況指数(2月) 欧 ユーロ圏失業率(1月) 欧 ユーロ圏CPI(2月速報)	欧 ユーロ圏生産者物価指数 (1月)	米 MBA住宅ローン申請指数 (27日終了週) 米 ADP雇用統計(2月) 米 ISM非製造業景況指数(2月) 米 ページブック 米 グラス連銀総裁講演 欧 ユーロ圏小売売上高(1月)	米 新規失業保険申請件数 (27日終了週) 欧 ECB金融政策発表 欧 ドラギECB総裁が記者会見	米 雇用統計(2月) 米 貿易収支(1月) 米 消費者信用残高(1月) 欧 ユーロ圏10-12月GDP(改訂)

[インターバンク市場]

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	0.080 ~ 0.120
SPOT 2M	0.080 ~ 0.125
SPOT 3M	0.110 ~ 0.140
SPOT 6M	0.130 ~ 0.170

<インターバンク>

今週の日銀当座預金残高は週初179兆円台から始まり、その後は日銀の国債・国庫短期証券買入オペ等の潤沢な資金供給により増加し、183~184兆円台で推移した。無担保コールON物は、週を通して0.07~0.08%を中心に取引された。複数の市場参加者による0.12%台の試し取りが見られた事もあり、25日の加重平均金利は0.086%まで上昇したが、週を通し概ね0.074~0.078%で推移した。ターム物は、1W~1M物で0.11%台の出合いが散見された。2M~3M物では0.12%台の取引も見られた。参院は25日の本会議で日銀審議委員に原田泰早大教授を起用する政府の同意人事案を賛成多数で可決した。

原田氏は3月25日に任期を終える宮尾審議委員の後任となる。

来週の材料は国内では木内日銀審議委員講演(5日、前橋市)があり、海外では米ページブック(4日)、ECB理事会(5日)、米雇用統計(6日)等が挙げられる。

[オープン市場]

NCD 3M	0.090 ~ 0.120
CP3M(a-1+)	0.090 ~ 0.095
TDB 3M	▲ 0.005 ~ 0.005
現先(on/1w)	0.080 ~ 0.100

<CP>

今週は、入札発行額は約21,600億円で、期落ち額約19,600億円(金融機関・ABCP除く)を上回った。情報通信系の大型発行が見られ、発行額が膨らんだ。今週の3M物の入札発行レートは、0.090%台前半~0.110%台後半で推移し、期内物の発行を中心に小幅上昇した。現先レートは、0.080%~0.100%程度で推移した。来週の期落ち額は約9,600億円となっている。

<TDB>

26日に国庫短期証券3M第515回債の入札が行われたが、最高落札レートは0.0020%(前回債0.0060%)、平均落札レートは▲0.0024%(前回債0.036%)と前回債から利回りは上昇した。セカンダリーは3Mで0.000%近辺の出合い。6Mは目立った出合いは見られず、1Yは▲0.01%近辺の地合いとなっている。来月5日に3M、6日に6Mの入札が行われる予定である。

<レポ>

レポGCは先週末同様0.075%-0.08%近辺の出合いから始まった。また受渡が月末初となるSNでは0.067-0.07% TNでは0.075-0.08%と特段荒れることのない出合いとなった。また26日には短期3M・2年債入札が行われたこともあり、0.09%台半ばの出合いとレート上昇するも、週末に日銀の短国買入オペが1兆5,000億円オフアされたこともあり、0.075%0.08%での出合いレートは低下し越週した。

SCは10年335回債が引き続きON物・ターム物ともに週を通してネガティブレートで推移した。先週に引き続き10年337回債のニーズが買切オペの影響等によりさらに強まりON物、ターム物ともにネガティブレートでの出合いが見られるようになった。10年債は312・321・323・325回債に引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。